



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.3.6 No.4353

狭山闘争復活を宣言

3/3 全国連第5回大会開催



石川一雄さんとの血盟
のもと新たな戦闘宣言
発せられる!

部落解放同盟全国連合会第五回大会が、三月三日に大阪市・森の宮ピロティホールにて開催され、「よみがえらせよう狭山闘争を」を合言葉に、石川一雄さんとの血盟のもと狭山大復活運動の新たな戦闘宣言を発する場としてかちとられた。

会場には全国から一八五〇人が結集し、終始熱気あふれる大会となった。

また石川一雄さん本人からは今全国連大会直前まで参加の意志表明がなされていたものの、

狭山再審情勢が切迫するなかで、結果的に石川さんの大会参加はなかつたが、石川さんとの連帯感あふれる大会になった。

大会は午後一時から開始され、冒頭開会あいさつにたつた石川副委員長(茨城県連委員長)は「石川一雄さんは必ず参加しますと直前まで言っていた、石川さんの心はこの会場にきている、狭山闘争の大復活大会として闘おう。全国連が狭山の表舞台に立つ、部落解放の再出発のとき、更なる勝利の前進を」と力強く訴えた。

主催者あいさつに立つた瀬川委員長は、「今大会はよみがえらせよう狭山闘争とあるように狭山闘争をもう一度復活していくこと、再審闘争を闘いぬくこと、さらに要求者組合を作り、行政・資本との闘いに進むことを決める重大な大会。行く手は大不況、差別、戦争がまちうけている。全国連は反権力の旗をあげて闘いつづけてきた。団結の力で生きる権利・生活を守ろう。」とあいさつした。

つづいて来賓あいさつに立つた労働千葉中野委員長は、メインスローガンを全面的に賛同支

勝浦運転区廃止は
明確な不当労働行為だ
1/29 地労委第二回調査!

二月二十九日一三時より、千葉地方労働委員会において「勝浦運転区不当廃止事件」の第二回の調査が行なわれた。

この調査で会社側は、「配転された個々の組合員について不利益扱いになるのか」と述べ、これに対し組合側は、「総体として不当労働行為である。労働組合としての活動ができなくなっていること自体が不利益であり、各職場に配転された全員がその対象になる。」と会社側の不当労働行為を明確に示した。

これに対し会社側は、「鴨川運転区設置の理由及び事実関係を次回準備する。」とした。

我々は、勝浦運転区支部を解体することを目的とし、勝浦運転区に勤務していた支部組合員を各職場に配転したことは、明白な支配介入であり、まさに不当労働行為であることを明らかにし、当局・JR総連の不当労働行為を徹底的に弾劾し、勝利命令を獲得するまで団結を固めて闘い続けよう。

次回四月一六日は、中野委員長が証言する。各支部は、支社当局を圧倒する動員を結集しよう。

持し共に闘う決意を明らかにしたうえで、七〇年代を上回る狭山闘争を、というこの歴史的な大会を感動をもってうけとめ、狭山闘争の大高揚をかちかちとり巨万の労働者の決起の実現へ奮闘することをあきらかにした。さらに歴史を動かす労働者の風がふいている、九六年を沖縄、狭山、労働運動の高揚の年としてようと訴えた。

来賓あいさつのち、狭山闘争復活の戦闘宣言が発せられ、新たな狭山闘争に立つ訴えが出され、子供会、婦人部、青年部

などが、石川さんとの連帯のこもった決意表明を行なった。

議案の提案ののち、阪神被災地から、芦原地区住宅要求者組合・番町地区住宅要求者組合から被災地の闘いが報告された。さらに全国各地での闘いの特別報告で一日目の議事を終了した。翌四日は会場を府立中小企業会館にうつし、議事、討論を行い、役員体制を確認して大会は終了した。

【写真は大会で来賓あいさつに立つ中野委員長】